

日本一の鹿児島黒牛を 味わう！

2月23日(金)、町内小中学校の児童生徒を対象に学校給食で鹿児島黒牛のふるまいが行われました。これは、全国和牛能力共進会で鹿児島県が日本一に輝いたことを記念し、地元の子どもたちにも食べてもらおうと鹿児島きもつき農協が企画したものです。この日は、給食の前に関係者から牛の生育について説明を受けてから、A5ランクの肩ロースが和風ステーキとしてふるまわれました。田代小3年の原澤愛子さん(原沢自治会)は「鹿児島の牛の素晴らしさが分かった。お肉がすごくやわらかくておいしかった。」と感想を話してくれました。



今年一年の無病息災を願って 伝統行事「せっがい」

2月3日(土)、田代地区8か所で、伝統行事の「せっがい(鬼火たき)」が行われました。これは、「五穀豊穰」「無病息災」を願って100年以上前から続く伝統の地域行事です。各地区の公民館や自治会が中心になり、伐り出した竹でやぐらを組んで火をつけます。「季節変わり」が由来となって「せっがい」と呼ばれています。麓地区では、弓道愛好家による「大的始め会」が行われ、中学生が点火して参加者全員で無病息災を願いました。麓地区公民館長 表木幸六さんは「これからも伝統のせっがい行事を続けていきたい」と話してくれました。



錦江町自主文化事業 ～日本の伝統芸能に触れる～ 「歌舞伎フォーラム入門公演」を開催しました

2月10日(土)、錦江町文化センターで歌舞伎入門公演を開催しました。これは、日本の伝統文化である「歌舞伎」に触れてもらおうと企画したもので、昼夜2部公演で1000人を超える来場がありました。昼の部では、町内の小中学校の児童生徒を招待し、代表の12名が「歌舞伎の立ち廻り」を体験しました。演目「棒しばり」では、酒を飲まないよう両手を縛られた家来二人の踊りや歌舞伎独特のせりふに会場は笑いに包まれていました。

①②大名が留守の間、両手を縛られながらも酒を飲もうと工夫する家来達
③④立ち回り講座の様子。町内の小中学生の代表が歌舞伎独特の動きを体験
⑤昼夜2部公演で1000人を超える入込み ⑥公演の最後に感謝の花束贈呈

